



いかずちの子

カトリック町田教会
町田市中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512



<http://www.machida-catholic.jp/>



主はアブラムに仰せになった。
お前の地、お前の親族、お前の父の家を
離れ、わたしがお前に示す土地に行け。

創世記 12:1

旧約聖書続編 (アポクリファ)

主任司祭 アシジの聖フランシスコ 田中 隆弘

11月の第3日曜日から第4日曜日までは「聖書週間」です。神の愛を知り、神の心を受け取るために、わたしたちは新約聖書と旧約聖書を神のことばとして読み、大切にします。「聖書週間」はこの聖書に「より強い関心を持ち、親しみ、神の心を生きる」ようになるための週間です。この「聖書週間」を前にして思い出すことがあります。神学生時代のことですが、当

時、試験は筆記試験ではなく口答試験が多数ありました。先生と一对一の面接の中で、先生の質問に答えていくという試験でした。そんななか、ある先輩の聖書学の口答試験での失敗談が、「教訓」として後輩に代々語りつたえられていたものがありました。それは旧約聖書のある科目の試験だったそうです。先生からある聖書の箇所



10月4日
霊的記念日の花束
アシジの聖フランシスコ

のテーブルの上に先生が用意しておいてくれた聖書ではなく、自分の使い慣れた、持ってきた聖書を開きました。そして、その箇所を探しますが、なかなか見つからず困っていると、先生は悲しそうな顔をして、その箇所はアポクリファだから、あなたの持参した日本聖書協会の聖書にはないと告げ、もう帰ってよいと言われたそうです。つまり、カトリックは聖書と認めているが、プロテスタントでは認められていない外典が七巻あるので、日本聖書協会は「旧約聖書続編付き」聖書として別に出版しているのです。神父になるうとしている神学生がこれですからという訳ではありませんが、一般的に言ってカトリック信者は聖書をあまり読んでいないようです。

とかもありません。わたしたちクリスチャンは自分たちを「神の民」と時々表現します。しかし、その神の民の信仰の伝承が書かれてあるのが聖書であり、わたしたちはその伝承を生きる民、

私の信仰告白

運営委員 瀬賀 睦

「聖書に生きる民」でもあるわけです。日々聖書に親しみ、聖書に生きることによって「目を覚ました」者として共々になれますように、聖母マリアのとりつぎを願ひましょう。

私は1970年代半ば、町田市木曾町で生まれ、小中高も自宅近くの学校に通いました。キリスト教とは何のかわりもなく、地元で就職し、日々を過ごしていました。16年ほど前、町田教会で結婚式を挙げましたが、教会に足を運ぶようになったのはまだ後のことでした。私は絵画や文学が好きで、三島由紀夫や太宰治などの近代日本文学が特に好きです。時々、詩も書きます。

キリスト教に関心をもったのはそんな芸術作品を通してで、キリストをモチーフにした絵画や小説などに出てくるみ言葉がなんとなく、心にひっかかり、そのうち、聖書を購入して、読むようになりました。やがて、教会の入門講座に足を運ぶようになり、3年ほど前、林神父様によって、受洗いたしました。今は、地域ブロック委員や運営委員として、教会と関わらせていただいでい

ます。学ぶことが好きで、手話を勉強中です。ミサなどでお役に立てることがあります。たら、お声掛けください。

まだ、受洗して短く、もつと多くのことを、学びたいと思います。また、教会の方々とたくさんお知り合いになりたいと思います。どうぞ、よろしく、お願いいたします。

最後に私なりに信仰を詩的に書いてみました。ご一読いただければ幸いです。幸いですが、吾死する時、キリスト笑う。キリスト死する時、吾泣く。キリスト、死なず復活す。吾生き、磔刑に遇いても復活せず、天国か地獄へ逝き給う。吾死して、マリア泣く。キリストの御胸に抱かれて、最後の審判に従わん。今を生き、妻を愛し、働き、友を助け、兄弟姉妹と手を取り、吾進まん。願わくば、吾罪、諸君の罪を、キリストの名の下に洗い流し給え。此の世は美しきかな。アーメン。

森司教を偲んで

森司教様に感謝

水野 貴久子

マロニエの実がなるパリで「昨日これ買ったよ」と指輪をはめた手を見せる男性。

「おいくらでした？」とのぞきこむ女性。

2008年9月、真生会館で森司教とシエガレ神父が開かれた勉強会で学んだ約40名がフランスの教会研修視察に出かけました。町田教会の友人二人と私も参加しました。

常に森司教は、キリストの心に忠実な教会「エクレジア」を信徒と共に求めてこられ、この研修旅行で、フランスの信徒の積極的な取り組み現場へ連れて行って下さいました。

例えば、パリのビジネス中心街にある「ラ・デファンス教会館」では近隣のオフィスで働く人たちが昼休みや夕方にミサにあずかり、食事しながら教ある部屋でそれぞれ布教活動をしていました。

結婚式や葬儀は信徒だけで行う教会、生活困窮者に食事や生活必需品を提供する場ではプロが調理や配送などを教えて自立を手伝っていました。冒頭の会話の前日、香部屋係が「司教様、指輪はどこですか」と尋ねた時、たまたま

私はそこに居ました。「持つてないよ」と司教、「困りま

す。いつも司教様の印をつけて

いてください」と香部屋係。

このやり取りを聞いて、私は

「森司教様らしい!!」と感動

しました。もうお判りと思

いますが、冒頭の会話は豪華な

買い物をした男性ではなく、

森司教と、信徒とは名ばかり

の私とおしゃべりでした。

司教に向かつて礼儀をわき

まえない女と不快に思われる

方もおられるでしょう。寶石

も飾りもついでない指輪を見

せ「日本に帰ったら、これは

要らなくなるから」と、いた

ずら子のような笑顔でおつ

しゃつたのが忘れられません。

今日、世界では各地で紛争、

しょう。森司教様、有難うございま

した。

森司教様の思い出

村松 勢津子

私が故森司教と出会いま

したのは五十年前、私の長女の

初聖体拝領準備の折でした。

当時、夫の会社の転勤で、

私は大阪より東京に越してき

たばかりで東京になじめずに

いました。田園調布教会に所

属しましたが、ミサにも足が

遠のいていました。

ある日曜日、上野毛教会の

ミサに与り、その信徒の井

上様にお目にかかりました。

後でわかったのですが、故井

上洋治神父の義姉にあたる方

でした。井上様は優しい方で、

私の長女の初聖体拝領の準備のため森神父を紹介してくだ

した宿での交流会は楽しい思

い出となっております。

司教様はいつお目にかかつ

ても静かで優しい霊的な雰

気のオーラに包まれていま

した。不思議な感じがいつも

。

九月五日、カテドラルでの

森司教告別式に出席しました

。ミサ進行中でも、生前の森

司教のオーラを感じてフシギ

な思いでした。森司教さまは私

たちに何を残して下さったの

でしようか。「人に優しく接

し愛すること」かもしれませ

ん。

森司教さまは生前多くの本

を書かれました。最後になつ

た「人生を支え老いを照らす光」は老齢期の方々のバイブルのように感じられます。老齢期に忍び寄る孤独感、孤立感をどのようにしたら乗り越え、輝かせていけるのか、私たち人間の幸せはいずこにあるのでしようか。深く考えたいと思います。

教会学校〜夏期学校〜

佐藤 有理

8月4日・5日、3年間お休みだった御嶽山の夏季学校がやっとできるようになりました。コロナで何でも中止になっていたのが、一つずつ元に戻っていくのがとても嬉しいです。

みんなでたどり着いた御嶽

山の沢の水はキラキラしてい

て、きれいでとても冷たかつ

たです。たまに吹いてくる風

も冷たくて、特別な気持ちに

なりました。

いろいろなことがあった2

日間ですが、一番の思い出は

花火の後にみんなであらうそ

を囲んで黙想をしたことです

。ずっとにぎやかだったみ

んなが、山の夜に溶けてしま

つたように静かになりました

。リーダーの島田さんが「ろ

うそくは自分を減らして周りを

明るくします」というお話を

してく下さいました。他の人

のために自分が減るのをため

らわずにいることはとても難

しいです。でも気がついた時

に小さいことなら私にもでき



夏期学校は神父様たち、

リーダーやサブリーダー、教会のみんなのおかげで楽しく過ごすことができました。ありがとうございます。

中高生会々練成会

李 璋琦

8月20日～21日にかけて、中高生会の練成会に参加しました。

20日の午後にはみんなで買い出しに行き、夜のバーベキューの仕込みをしました。野菜を切ったり、おにぎりを作ったりと大忙しでした。暗くなり始めるころにバーベキューを始めました。肉巻きおにぎりやキャベツの中にお肉やチーズを入れたインパクト大なキャベツ大爆発といったごちそうを談笑しながらいただきました。食後には花火をしました。教会の中庭での花火はとても新鮮で、田中神父様、小田神父様とともに、



楽しいひと時を過ごしました。

21日は朝早くに出発し、富士急ハイランドに向かいました。最初からFUJYAMAで絶叫したり、新しくできたジェットコースターにみんなに乗ったりと満喫しました。アトラクションはどれも長蛇の列で、待ち時間が長かったのですが、話したり笑ったりして楽しく待ちました。最後にはソフトクリームを食べながら休憩し、お土産を買って車に乗りました。外にいるだけで汗が滴り落ちるような日でしたが、何ごともなく無事に帰途につくことができました。

教会に着いたら、充実した練成会ができたことを神様に感謝し、お祈りを捧げました。

サンティヤゴ巡礼記①

白柳 弘幸

夢を持ち続けて

大聖年二千年の夏、『カトリック新聞』にサンティヤゴ巡礼紀行文連載があり、巡礼路のことを初めて知りました。巡礼路を歩くことを夢見て、サンティヤゴ巡礼や四国巡礼の本を読み「何のために歩くのか」「どのような巡礼をしたいのか」などと巡礼に向かい合う時間を持ち続けました。サンティヤゴ巡礼路はスペイン北西端の街サンティヤ

ゴ・デ・コンポステラ(以下、サンティヤゴ)に、町田教会の守護の聖人である聖ヤコブ(スペイン語でサンティヤゴ)の墓があるとされ、ヨーロッパ各地からのこの街を目指す道をさします。コロナ禍前、そして今年三月にNHKBSプレミアムで「聖なる巡礼路を行く」という番組をご覧になった方もいるでしょう。世界中からサンティヤゴをめざして歩く方がいるのです。サンティヤゴはローマ、エルサレムとともにキリスト教(正確に言えばカトリック)の三大聖地の一つです。

二人で歩くことに

巡礼路を歩く夢を妻に話すと、無理なので止めたほうがよいと言われました。学生時代に巡礼路を歩いた友達から大変であったことを聞かされていたのです。ところが、義父からカトリック多摩教会「教会報」の高齢者が歩いた記事を教えられ、賛成してくれました。

数ある巡礼路の中の一つ通称「フランス人の道」の町サン・ジャン・ピエ・ド・ポールからサンティヤゴまでの七九五キロを歩くことにしました。この道を選んだのは、巡礼路の町の様子や宿舎など

新ワンポイント聖書

見えるものを見て、

見えないものを見る

新共同訳の「(絶えず)主に相対して見ます」(詩一六・八)や同箇所教会の祈り、「神を思う」は、少し物足りない感があります。最近の協会共同訳では「主を目の前に置く」とあります。ただ何となく「思う」のではなく、主を心に留めて見失わず、その臨在を常に心に留め、身近におられることを意識するという意味になるでしょう。

原典をみて初めて背景がはつきりする良例があります。「彼らがイスラエルの神を見ると、その御足の下にはサファイアの敷石のような物…大空のように澄んで…彼らは神を見つめて、食べ、また飲んだ」



(3)

東京カトリック神学院講師 浦野 洋司

(出二四・一〇～一一)です。同じ「神を見る/見つめ」が出ますが、最初は対象物(サファイアの敷石:大空…)を見ていますが、次の「神を見つめ」は「食べまた飲んだ」、神との内的な交わりを表す別の動詞です。

ミサでは確かにホスチアを「見ます」。拝領し席に戻ると、「食べ、飲む」の段階で、自分のうちに来られた主と内的な交わりになるわけです。旧約人の感覚に学ぶとすれば…。彼らの信仰生活に何となく「神を思う」はなく、しっかりと主を「目の前に据える」力強い側面があったのです。クーサのニコラスによれば、この「神を見る」とは、常に「神から見られている」相互作用だと言います。





緑の山中に続く巡礼路 (初日)

についての情報が一番多かったからです。初めてのことで安全第一を考えました。ただ、ふたり共に仕事があるので五回に分けて歩きました。歩き方は自由なのです。巡礼中の努力目標として、

- 一、ミサに与る
- 二、巡礼路の教会で聖体訪問
- 三、巡礼者向け宿舎に泊まること、としました。
- 一回目はログローニョまで、約一六五キロ(八日間)。
- 二回目はフロミスタまで、約一九〇キロ(十日間)。
- 三回目はアストルガまで、約一七三キロ(十一日間)。
- 四回目はサラリアまで、約一五二キロ(七日間)。
- 五回目はサンティヤゴまで、約一一五キロ(七日間)。

歩く、祈る、食べる、寝るを繰り返す四三日間でした。

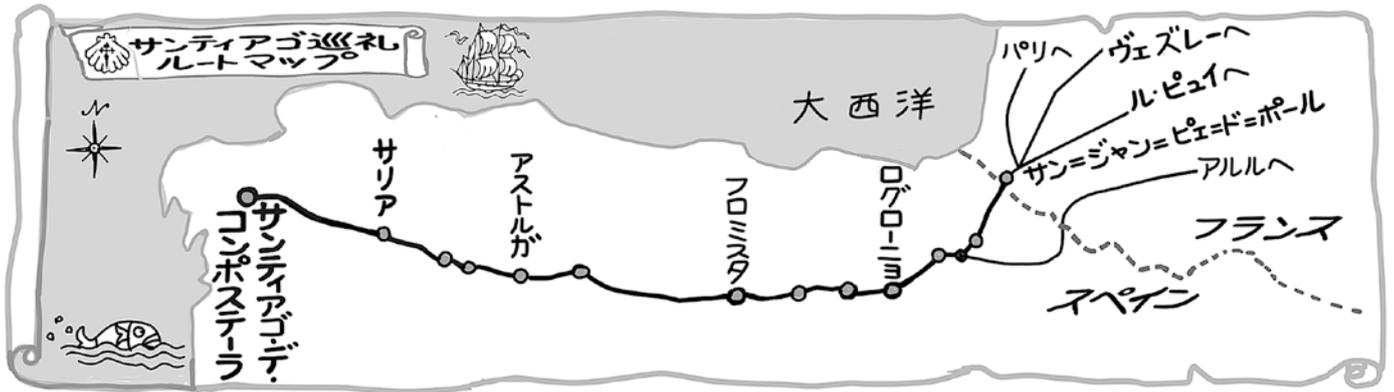
夢の実現へ

二〇一七年四月二十九日、サンティヤゴに向けて歩き始めました。夢を持ってから一七年後のことで、本当に巡礼路にきているのだという高揚感を覚えました。

巡礼初日はロンセスバリーエス修道院の巡礼宿舎までの整備された二七キロもの長い山道を歩きます。フランスからスペインへの山中の国境を通過しました

ロンセスバリーエス修道院は数年前、神田の岩波ホールで上映された「大いなる沈黙」の舞台になったフランスアルプスに建つグラランド・シャルトルーズ修道院を思い起こす壮麗なものでした。夕方からのミサは多くの国から大勢の信徒で溢れていましたが、日本からは私たちだけのようでした。ミサで唱える「世界に広がるあなたの教会を……」の言葉そのものでした。

ミサ後、神父様が巡礼者を祭壇の前に集められて、巡礼が無事に終わるよう祝福をして下さいました。宿泊地のミサ後にはこうした式が続きました。両足の踵のママが潰れた痛さを忘れる時間になりました。この夜、長い山道を歩いた疲れで、宿舎の部屋の中は巡礼者のいびきの大合奏になりました。



信者動静

2023年2月～9月
(個人情報のため、削除しています)